



パリワールニュースレター



ヒンディー語でパリワールは“家族”

今年はコロナウィルスの上、重なる大雨で大変な年になりました！

パリワールの会員の皆様、お元気でいらっしゃいますか？大変ではなかったですか？

インドにおきましても、コロナウィルスの影響で、子供達も自粛生活をしているようです。

先の見通しが立ちませんが、インドの為に出来ることを続けて行きたいと思っています。

皆様の暖かい支援に感謝しています！

これからもよろしくお願い致します。

そして、皆様のご健康とますますの発展を心からお祈り致します。

会長 安田恵実

シッキム州のTPA学校へのプロジェクターを贈呈

山奥のシッキム州にある TPA 学校は、地域の有志の方々によってかろうじて運営されています。

私達は少しでも子ども達の学習の役に立つように、プロジェクターを寄付しました。子ども達の学習の幅が広がればいいと思います。

2019 年 12 月



職業訓練センターにパソコンを寄付

貧しい家庭の子供達を支援しているDAD I という NGO の代表パラムジート・ビンドラさんは、女性の為の職業訓練センターも運営しています。

以下は、2019 年 10 月に訪問した時のそのセンターの状況です。

先生 2 人/生徒 23 人/1 つのコース 6 カ月/授業料は 1 か月 300Rs (約 540 円)

① 美容クラス

メイクアップの練習、美容クリームを花や葉から作り、販売する。

修了後は、自分たちで作った美容クリームを売ったり、お店を開いたりしている。

② 健康的食事クラス

子どもにとって健康によい食事を学び、ビンドラさんの学校の子供達に昼食を作る。

修了後は、健康的食事クラスを自分たちで開講している。



職業訓練センター近くのスラム居住地。デリーのスラム人口は100万人以上。



ビンドラさんにパソコンを買う為の支援金を贈呈しました。

デリーのスラム人口は増えていますが、政府はスラム人口を減らすために何もしていないそうです。(住宅建設の計画を立てても実行出来ていないらしいです。)

ビンドラさんは、そのスラム問題を解決していくためには、教育が大切だと考えています。

「私達日本人に出来ることは何ですか？」と聞いたら、「奨学金制度で沢山の子どもたちに教育を受けさせることです。」と言われました。

地道に頑張っているビンドラさんをこれからも応援していきたいと思います。

インドでのコロナ禍について

インドでは3/25からロックダウン（全土封鎖）が開始され、3/24に発表されたので準備もままならず突入しました。食料品店、薬局、金融機関、インフラ部門、貨物輸送などの、日々の暮らしに欠かせないもの以外は全て閉鎖されました。

もともと引っ越す予定でクーラーを売ってしまった矢先ロックダウンに入ってしまった為、子供と夫が全身あせもになってしまいました。ただ、経済活動が止まった事で、例年に比べて空気も見違えるほどきれいになり、暑さもましでした。食料品の買い出し以外は一切外出が許可されず、私と子供は3か月間1歩も外に出る事はありませんでした。困った事は、子供はお絵描きが好きなのに用紙を入手できなかった事です。食料は一時期オンラインも配給過多でストップ、近くのスーパーからも食料が消え、ジャガイモで食いつなごうとしていたところ、物流ラインが戻ってきて、食べ物に困る事はありませんでした。

ロックダウン中、日雇い労働者の方々に関する心が痛むニュースが毎日のように飛び込んできました。田舎から都市部に出てきて働いているその日暮らしの人々は、仕事がないため食料を手に入れられません。インドはこのような人たちに支えられて成り立っていますが、彼らは今回のロックダウンによる、飢餓、自殺、交通・列車事故、疲労などが原因で亡くなった人が少なくありません。政府の支援、民間の支援も行き届かず、家族の為に携帯電話を売って最後に自殺をしてしまった方や、死ぬなら故郷で死にたいと、食べ物もなく歩いて帰ろうとする人々、その途中警察官から暴行を受けたり、事故で亡くなってしまった人々など。私たちはそのような人達の為に正しく使われる事を願って小さな募金をする事しかできませんでした。

私たちは家族が安全に一緒に住めるところがあるという事に感謝でしかありませんでした。

当初は早い段階で厳しいロックダウンに切り出し、大胆な決断力がすごいと思いました。結果としては、インド政府が期待したほどの効果がなく、すぐに経済が悲鳴を上げて6/1からロックダウンを段階的に解除していくこととなりました。世界最大のロックダウンでしたが成功だったとは言えません。やはり衛生観念が弱い国だとロックダウンの効果が得られないのかもしれませんが、今から言えることですが、日雇い労働者を初期の段階で故郷に戻してあげる措置がとられていれば、今ほどインドの隅々までコロナが持ち込まれることはなかったであろうと言われている人もいました。

私は3歳の息子の事を考え、夫と話し合いを重ね、私と息子のみ6月末に日本に臨時便で一旦帰国しました。インドはまだまだ感染爆発が収まらず、心配な日々が続きます。時には大変な状況の中でもインド人のユーモアで一時的に心が救われることもあります。世界中がこの困難を乗り越えて新しい一歩を踏み出せるよう、祈るばかりです。そして1日も早く以前のよう世界を往来できる日が来ることを願っています。

（2020年8月内藤由佳理）